

日本剣道形

「魅せる演武」のテクニク

～佐伯太郎範士九段直伝／写真で学ぶ上手くうつコッ～

指導 佐伯勝行 教士七段（福岡）

壮年期、父・佐伯太郎範士九段より日本剣道形を学んだ佐伯勝行教士。伝授された教えは父が大日本武徳会武道専門学校時代に学んだものであり、そこには演武者を輝かせる数々のコツが秘められていた。打太刀、仕太刀の共同作業でつくり上げることをモットーとする、その秘訣とは？

取材・構成／月岡洋光 撮影／窪田正仁

私は養父であり剣道家として
も尊敬してきた故・佐伯太郎範
士九段から日本剣道形を教わり
ました。徹底して教わったのは
38年前で私が40歳のときです。
人前で演武する機会を得て父に
教えを乞うたわけですが、木刀
ではなく、すべて刃引きでの稽
古で、毎日何十本、何百本とく
り返し肩や腕が上がらなくなる
ほどでした。

大正生まれの父は大日本武徳
会の武道専門学校で日本剣道形
を学んでおり、形をうつコッや
うまく演武する要領など、教

本に書かれていないようなポ
イントの数々も教示されました。

稽古の成果というべきか、そ
の後私は福岡県内の大会で、6
回も日本剣道形を演武させてい
ただく光栄に預かりました。70
歳のときに右膝人工関節入替手
術をし、正座、蹲踞ができなく
なっただけは自分自身が公の場
で演武することはなくなりま
したが、幸いにして県内で日本
剣道形の講習会を実施する機会
はたびたび得てきました。

教本に載っていないポイント
指導はとても好評で、父の教え



佐伯勝行（さえき・かつゆき）

昭和23年（1948）3月福岡県生まれ。78歳。桜井勝、シズ子の長男として生まれ、9歳で実父を亡くす。昭和40年母の再婚に伴い佐伯太郎が養父となる。鞍手高校から國學院大学に進み鈴木幾雄範士に師事。卒業後、警視庁に奉職し、警備部警護課（SP第2期生）として田中角栄元総理の担当も経験。母の病のため7年在籍した警視庁を辞し、昭和52年（1977）福岡県警に勤める。地域貢献の一環で小倉女子商業高校の剣道指導を務め、5年連続インターハイ出場、玉童旗大会で連覇。地元開催のとびうめ国体で少年女子の監督も務め優勝（平成2年・1990）。のちに福岡南女子高校（現福岡常葉高校）の剣道部の創部に指導者として携わり、3年目で全国選抜大会で優勝に導く。令和2年（2020）10月「瑞宝単光章」の叙勲を受章。日本剣道形は佐伯太郎より徹底した指導を受け、近年は福岡県内で日本剣道形の講習会を実施してきた。令和6年（2024）に『佐伯太郎範士九段直伝 日本剣道形』のDVDを作成した（非売品）。